

新参昆虫紹介「トガリアメンボ」

曽根崎 猛史

真夏の強い日差しの下でも元気に活動している昆虫といえば、トンボやアメンボなど水辺で暮らすものたちです。昨年、埼玉県への侵入が確認された外来種トガリアメンボを紹介します。

トガリアメンボ *Rhagadotarsus kraepelini*
(アメンボ科トガリアメンボ亜科)

【特徴・生態】

体長 4mm 程度の小型のアメンボで、雌雄とも腹部先端が長く突出するのが特徴です(写真1)。有翅型と無翅型があり、見た目は大きく異なりますが、胸部背面が白い点で他種と区別できます。原産地は東南アジア、イラン、ニューギニア、台湾という旧東洋区を中心とした広範囲に及びます。



写真1 無翅型

西日本での調査で成虫は6月から11月まで、数世代を経ることが知られています。在来アメンボの多くが成虫越冬するのに対し、本種は卵で越冬します。オスは水面で産卵基質となる小枝等を押しながら泳ぎます(写真2)。



写真2 オス(上)とメス

【移入後の経緯】

国内では2001年に淡路島や神戸市周辺で確認されたのが最初の記録です。海外から持ち込まれた水生植物などに付着してきたという説がありますが、侵入経路は解明されていません。驚くべきはその拡散の早さです。発見からわずか5年ほどの間に近畿・中国・四国地方から東海地方にまで進出し、2009年には九州からも報告されています。

2013年には関東地方で初めて千葉県で記録されるなど、現在も分布拡大が続いています。これほどの短期間に分布を拡大するのは、有翅型のメス成虫が活発に飛翔することが原因だと考えられています。

【埼玉県内での記録】

県内では2014年、秋ヶ瀬公園で初めて記録されました。当館元職員の碓井徹氏から情報を伺って、調査の際に水場を意識していたところ、幸手市の池でトガリアメンボを確認したので報告します。

採集記録

採集日： 2015年8月22日

採集地： 幸手市 高須賀池

採集個体：11 (♂5 ♀5 不明1)

※性別不明個体を除く10個体は無翅成虫。

周囲に植物が繁茂する池の岸边(写真3)で20個体以上を確認した。



写真3 高須賀池の生息環境

皆さんも岸边をのぞいて、本種の分布情報をお知らせ下さい。

(そねざき たけし・担当課長)